（十六日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭翌日、第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢
廣告料 一行三十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

潮聲（四）

第三、同人近什

もづ啼くやつるべ落しの陽を腕に　一步
秋雨に半世の愚を談りけり　同
秋果つる流れや抗に鳥一羽　文狂
鐘の聲秋今將に暮れんとす　同
鮮かな日を彩りや菊の園　萬袋
ふしどから月を眺むる山家かな　江亭
闇空の北斗をにらむ花火かな　同

大空も菊の香に澄む佳節かな　稻村
下町は雨の夜を寐ず秋出水　晚霞
朝寒や隣りの咳のまた續く　同
瓢ふらり浮世の蓙や紅葉かな　守穗
目張りにも念を入るゝや辛茄子　同
ちゝろ鳴くや涙ぬぐはず立つくす　何鳴
はたはたに野菊折る肩越されけり　同
栗鼠飛ぶや栗たつる谷の深さかな　中納言
葉栗のおたりせゝらぐ水き寒　同
菊日和蝶も出て舞ふ園の中　閑月
赤とんぼ野川のへりのほけ薄　同
稻架のひまより出たり放馬　羊臺
白菊や君が千歳を咲きにけり　朧堂
廢船の傾く磯や渡り鳥　小楠
山畠の紫蘇の實殼やかさと鳴る　鐘一
無果花にもづの來て鳴く小春かな　雲步
遠山にあかるき日あたる紅葉かな　逝硫
暴風やんでもづ門に鳴く朝かな　孤舟
納家の灯の弱き光や籾を摺る　同
さんざ降る雨に隣りの砧かな　二葉
ふかふかと灯す小家や秋の雨　同
秋の聲灯のゆるゝ破れ障子　松堂
蜀黍の葉す水や既に秋の聲　同
露寒し尻ぬけ柿の一つ落つ　天仙
秋の雨強さ弱さの一夜かな　同

▼次回講談豫告

來る十九日より連載

幕末奇傑 高山彦九郎

中西洋々作
布施長春畫

梗概…下野國新田郡細谷村の郷士高山彦九郎は新田十六騎黨高山遠江の末孫、母の指導によりて彼は赫灼たる勤王の血に燃えつゝ田を耕してゐた。然かし彼は徒らに戀々として故山にゐるの愚を悟り鍬を捨て家を捨て母を殘して草莽の臣として天下遊説の大志を企てた將軍家の膝元花のお江戸を「皇運隆昌武威光りを奪わる」と大言悲語しつゝ横行活步し到る町辻に勤王論を絶叫した、その劍客塚本相之介に知り或は女掬摸たろくにからまれ、仁義を説き人道を唱ふ彼の大きな眼と大きな圖體は幕吏の目標として當時のお江戸を騷がした後ち京に上つては高辻大納言家の雜めれこゝ掌柴田主計と知り之れが動機となつて大納言認に京學の復興を計り偉大なる人物は益々勤王の武威を唱導絶叫しましたが中井竹山などの意見の相違から失意の人となり空しく故山に歸り再び京への再遊となつたが忽ちにして祖父の死を知りまた祖母の訃に接した。時に世は惡執政田沼意次の秕政の下に疲弊その極に達しついで松平越中守定信が立ち世は漸く太平の波に和らいであつた頃彦九郎は越中守の名に依つて江戸に呼び生れたれど事志と違ひ家庭はまた兄爲に破られ妻子は路頭に迷ふと言ふ有樣、せめて公武合體に依つて文治の徹を明かにせんと思ひしかれど又齟齬ばかるうちかして果さず失意の心を抱いて天涯千里旅路に[illegible]ねて中山正親町、三郷を盟主に計つてゐた大謀破れた二郷、蟄居を命せられたことを遠く九州地にあつて知り、忽ち同志森嘉膳の邸に走つて再び京都に出て幾多の困難をなめて遂に三條大橋で皇居を拜した、その彼の眼には涙が流れ光つてゐた、無漸にも夢破ら[illegible]彼[illegible]悲憤慷慨しく消[illegible]ゆかつ

明日の吉凶

新暦 十一月十七日
舊暦 十月十七日

▲一白の人　眞面目にして外に飾らず内に勵めば大吉日▲二黑の人　力を量らず進み過ぎて却て失敗を招く日▲三碧の人　運氣開發の良日なれども感情の衝突は注意▲四綠の人　迷ひの雲に閉されて進退の自由を得ざる日▲五黄の人　秩序を大切に變事に當り動せざる樣すべし▲六白の人　平和をたもつが第一口舌は後の禍ひを引起す▲七赤の人　榮華を夢みるよりも内を整ふるが安全なり▲八白の人　調子能く行くかと思ふ間もなく覆へり易き日▲九紫の人　目上の引立は十分あれど依賴心を起す勿れ

小説 死を超ゆる者 (139)

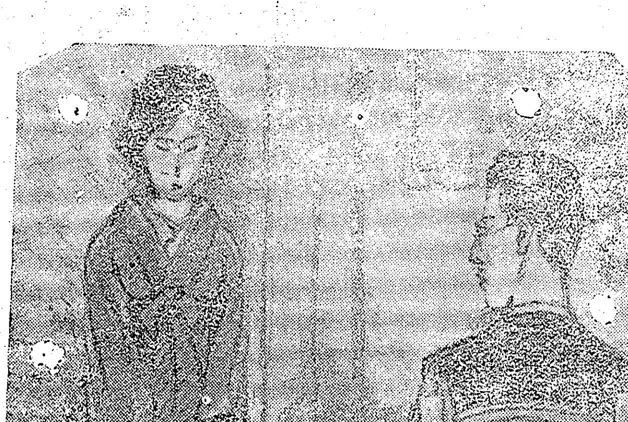
三上於菟吉作
布施平八郎畫

傍なき人（三）

かく言つたときの勇は、もう全く自分の新世界へ復歸してしまつて居るにちがひなかつた。彼の若々しい瞳は晴れやかな愛情を以て柔かに輝いて居るのであつた。

×　×

幾年かの月日は流れて行つた。勇の實父は三十年近く住んで居た京都への親みよりも新らしく見出した肉身の子への愛情に引かされて今や理想孤兒院のある雜司ヶ谷へ隱棲をいとなんで靜かな老後の日を送つて居た。



彼は殆ど毎日のやうに孤兒達の遊戲を眺めて居たのであつた。院兒達が一番なついて居るのは、今では彼等から女先生と呼ばれて居る婦人が第一で、第二には此らう人であつた。勇は寧ろ彼等からは父へ對するやうに一種の感怖を抱かれて居たと言つても好い。

晴れた秋の夕暮の事であつた。らう人は庭がよく見える院長室の窓に近く坐つて外を眺めて居た。遠くの庭隅にあるブランコに、お下げにした十一二の女の兒が乗つて輕業に興いで居た。それを圍んでもつと小さい孤兒達がぞや〲とさゝも面白さうに囃し立てゝ居たが、その中に乳母車を押した美しい婦人が混つて居た。その婦人こそこゝで女先生と呼ばれて居る保姆長であつた。

「何日ものお轉婆が面白さうに跳て居るわい」とらう人は獨り語のやうに言つてぢつとその方を眺めて居たが

「女先生は一じ大きう丈夫さうになつたが、此頃また大變やつれたやうぢや」

らう人はさう言つて靜かに背後を顧みた、室內には大きなテーブルに向つて勇が坐つて居た、テーブルの上に多くの書物や書類が所狹しとまでに高く積まれてあつた

「なあ勇、あの人の身體が惡いのぢやないかい」

勇は今朝女先生が机の上にさして行つて呉れた薄紫秋草の花を見詰めるやうにしながら答へた

「身體がわるいと言ふのでもないでせうが女には男に解らぬ頭の病氣があるやうですね」

老人は暫らく沈默したやがて言つた

「勇、わしは前から話したいと思つて居たのだが」

と幾らか躊躇つてつゞけた

「お前はどうしてもあの女と一緒になる氣はないのかな、どの點から見ても此の上もない女だと俺は思ふが……」

勇は靜かに眼の前の方を見詰めながら答へた

「その事だけは仰しやらずに下さい」

らう人は溜息した、そして秋の日のうすれ行く庭の面を再び眺めた、それから一ケ月許り經つての事であつた、同じ部屋の窓から、もう木からし淋しく寒く吹き始めた薄暮の庭を見渡しながら何か默想に耽つて居た勇はふと人の氣配に背後を振り返つた、戸口に黒衣で身を包んだとき子がたゞ茫然と立つて居た。

彼の女はもう甚だしくやつれた爲め大きく見ねる眼でぢつとこちらを眺めて居た、而してなにやら物言ひたそうに前に進んで來たのであつた。

廣告

大和田醫院
平町南町
電話一七〇番

石炭ノ特賣
當店小賣部開設三週年紀念トシテ特賣致シマス
磐城炭礦一等塊炭
正味 十貫目 金六十錢
炭價ハ日ニ日ニ向上致シマスガ今回特ニ金六十五錢ノ品ヲ金六十錢ニ値下致ス次第デス
◎目方ノ正確 ◎品質ノ優良 ハ當店ノ特色デス
電話二一三七番
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平停車場前
岡部石炭商店

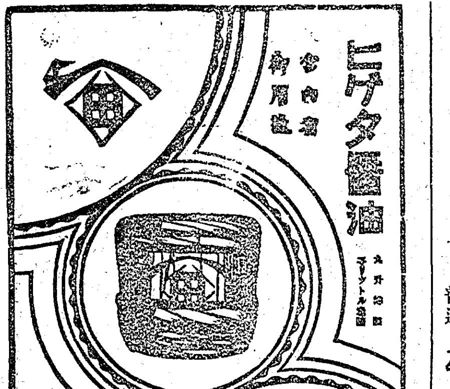
原作 小田喬　監督 牛原虚彦　松竹名作
大都會
鈴木傳明　渡邊篤　藤野秀夫　新井淳　田中絹代　岡村文子　野寺正一……助演
生活の全線の第一線光明と野心の世界そして暗黒と
爭鬪の世界……大都會汗と油にまみれた或る人の物語

日活大作名畫
小川隆 梅村蓉子主演
宿命史 熱火 全
淺香新八郎 川上彌生 條讓 助演
法律の下に罪を罰する今の世の物語りではない武士道の名に於て意地の假面に人と人とが劍に解決をまつ時代の物語

實演餘興
名犬ルレヴユーと世界的露國美人の舞踊
種目
ヘドウイック・グルーベル孃一行
裸形 コミック オペラ
チャールストル タンゴ ダンス
オリエンタルダンス
名犬演技
ハーモニカ吹奏、ダンス數番、空中曲藝、獨唱……其他

十六日ヨリ五日間
料金普通
平館

特約店
平町田町
廣瀬支店
電話五四番


ヒゲタ醤油
宮內省御用達
銚子醤油株式會社

◆內臓外科 ◆外科一般 ◆花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

內科診療
消化器病科 呼吸器病科
小兒內科 一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

婦人病には美神丸を

こんな徵候の人は
一時も早く治療すべし
◎血帶下赤帶下コシケ多き人
◎下腹痛く節張り又はつる人
◎子宮冷込、腰脚の冷ね又は痺れる人
◎月經不順月經時に腹の痛む人
◎神經衰弱ヒステリーの人
◎月經時の前後に白粘つたこしけが下る人
◎子宮瘀毒尿意頻の人
◎子宮痒く糜爛出血する人
◎局部惡臭かゆき人
◎逆上、頭痛、耳鳴、眩暈する人
◎肩が凝又は背が痛む人
◎流產、早生する人

美神丸の主治効能
白帶下 子宮內膜炎 子宮痳病（淋渇）子宮出血 子宮痊痒 子宮糜爛 月經不順 陰門惡臭 子宮下り及ゆがみ 肉腫瘀毒に起因する不姙症等 不感症（愉よきを知らぬ病）

一日藥價僅か五錢の
自宅療法
救世の婦人藥
美神丸は（安價、簡便、卓効、秘密の四つ揃つた理想藥です）
定價表
一週分 四〇
二週分 八〇
五週分 一、八〇
十週分 三、五〇
地方代理店
平町五丁目角
山野邊藥局
一町一村に一特約店を募集す
速刻希望者は申込あれ

平町南町
上田醫院
電話一二九番

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

外科一般（入院隨意）
內臓外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

七名の委員附托で 直接交渉開始

具体案一切を決定した

平町會の電燈案

平町會は昨十五日午後二時より開會昨報の如き議案をそれ〲可決し懸案の電燈料値下運動問題につき委員長花澤兎五六氏より詳細な報告あり町會は萬場一致を以て承諾議長指令の下に左記七名委員となり直接交渉の運動に移ることゝなつたが委員名と値下要求事項は左の如し

（委員）荻原義雄、馬目武之助、馬目雅治、千葉彦治、花澤兎五六、柳下元吉、緑川喜三郎

要求事項

燭光	金額
五	五〇錢
一〇	六〇錢
一六	七〇錢
二四	九〇錢
三二	一一〇錢
五〇	一五五錢
一〇〇	二四〇錢

二、從量燈

制限一戸五燈以上とす

一家の燈數五燈以上の時、一燈一ヶ月貳拾錢

同三十燈同　同拾九錢

同六十燈同　同拾八錢

同百燈同　同拾七錢

三、引込以降の器具材料は無料貸付（定額燈と同じ）

四、一燈一ヶ月に付一キロワット時半以上使用方の超過料金は從前の通

五、取付料新設七十錢を五十錢に增設位置變更四十錢廢燈一圓を五十錢、とす

六、休燈休燈料は無料初度手數料十五錢

七、電球斷芯は無料破損は從前通

七、前任者に滯納あるの故を以て後任者に對し點火を拒まざること

九、電燈料金滯納者に對し瓦斯供給を停止せざること又瓦斯料金滯納の爲め送電を中止せざること

平町の夜を飾る 驛前の露店街

三丁目から家越して

昨夜から店開き

平警察署が交通取締の完全を期する爲めに平町三丁目角の露店營業を禁止したのから端を發し常磐露店商組合**其の他が**反對をなしたが警察當局では反對を受け付けず其後數回の接衝をかさねた結果磐城銀行から以南に於て露店營業を許可する事になつたが同所は場所が狹いために多數の營業者が出來ず從つて場所爭ひ等も起こり露店商組合でも處置に困つて種々研究をかさねた結果平驛前は道路が廣いから同所に露店營業を開業出來る樣警察當局と交涉した結果同署では三丁目の十字路以外の場所には許可するといふ最初の主張通り平驛前から以南丸新館の處まで兩側を露店商人が營業をしてもよいとの許可を與へたので來る十五日から驛前に於て露店商人が營業をなす事になつた驛前道路は道路の幅が廣くそれに列車の乘降客が往來するので露店營業**開始に依つて**同所は今以上賑ふものと見られてゐるが暫くの間ゴタ〲を繰返してゐた露店問題も驛前に移轉して解決を見た譯である

石炭の年產總額 千五百萬圓

着荷の最高は穀物

石城の物產調査

石城郡における三年度の各地物產額中その高値にあるものは鑛產物の千四百六十六萬圓次ぎが工產物の六百卅九萬三千圓農產物の五百廿二萬五千圓水產物の二百卅六萬九千圓といふ巨額を示しつゝある狀態で他郡に比し**海陸共に**天惠に浴しつゝあるものといひ得る而してこれ等產物は年々郡內十一驛より各方面に搬出されてゐる今各驛より發送された今年上半期の成績につき通報するに總トン數百二十五萬六千トン前年度に比し四分三厘の增差を示してゐる狀勢より推知するに經濟界の不況金融硬塞その他幾多の受難時代に在つても各事業家が如何に一意隱忍自重して營業に猛進しつゝあるかを窺知し得て喜ばしき現象といはざるを得ないこのうち**最も多き**を占めてゐるのは何といつても石炭の百八萬百八十九トン、セメントの六萬九千七百六十七トン、魚類三千九百三十九トン、木材木炭一萬六千八百十三トン等であるこれに反して到着狀況を見るに總噸數三十四萬五千八百トンで發送同樣八分一厘の激減を來してをり一般に萎微如何に甚だしきかを窺はれ反面又不況打開に各商人等が猛烈な競爭を續けてゐるかを察知するに難くなりその主なるものは穀類の五千百九十トンでこの主因とするところは米が郡內生產の供給を受けねばならぬ結果で最も炭礦に關係深きものである

家賃の値下は當然

地主も共に責を負ひ

城山　青木不眠

家賃に元來收入の何割を適當とするかといふ事は極めて六ケしい問題であるが、大体勤勞階級では一割ぐらひが適當であらう。然るに多くの人は二割三割或はそれ以上の家賃を支拂つてゐるこれでは彼等が生活難に苦しむのも無理ではない。現在の家賃は、多く大正八九年頃の好況時代に定められ、若しくはそれを標準としたので、當時は物價高と住宅の不足を理由として隨分亂暴に家賃が定められたものである。或は前金に、或は無利息の數ケ月分の敷金を徵し、その無利息の敷金や前金でまた家屋を建築して高い家賃を貪るといふ、鬼のやうな事をやつて居た。今日はその當時とは經濟狀態並に住宅の需給狀態は大いに變化したのであるから、家賃の値さげをするといふ事は當然の事であらう。家主は家屋稅のへらないのも口實に、家賃の値さげを拒んでゐるやうだが、我等を以て見れば、家主が近年家賃の高いのと木材の安いのと住宅の思惑建築をなし、その結果住宅が過剩となり空家が多くなつたので、その空家に對する固定資本の利子や家屋稅までも、他の借家人に負擔させやうとするから家賃の値さげが出來ないのである。

しかしこゝに見逃してならぬ事は、地代の問題である、世間では家賃の高いのばかりを責めて住宅の下には高い地代の潛んでゐる事を少しも知らないやうであるが、現在家賃を高からしめてゐる、最も有力な原因は地代である、東京大阪等の大都會の郊外では地代坪一ヶ月三十錢乃至五十錢といふのが珍らしくない、一ヶ月五十錢とすれば年六圓三十坪を借りたとすれば年百八十圓の地代を納めねばならぬ、これでは家賃の高くなるものも無理はない、而もその土地はどんな處かといふと多くは山林原野若しくは畑地で地目變換もされて居らず、隨つて公課といふものは極めて僅少なものである、こういふ地主の暴利を見のがしていたづらに家賃のみを責めるといふ事も、決して公平な輿論とはいはれない。

讀者と記者

童謠と童話

あちろ生

近來童話や童謠が非常な勢ひでもてはやされてゐる殊に小學敎育に於て若い先生達が無暗に童話や童謠を吹込む傾向があるが一体彼等は眞個に敎育上有益なりといふ信念から敎へ込んでゐるのか

◇

童謠は歌であるから意味と節と音の關係を愼重に考へるべきもので子供に與へたくない樣な內容のものは敎育上困る。勿論道義上面白からぬ童謠はない筈だが、物の見方についてあまり暗い、あまり銳い、あまり感傷的なもの、またあまりに高い理想主義のものは望ましくない。

◇

童謠でさへあれば何でもよいものだ位の淡い槪念的な考へから或ひは若い女の先生などの一槪に感傷的な心持ちから手當り次第に敎へ込まれたらそれこそ問題だ。童謠によつて子供に何物かを敎へようとするよりはその子供自身の歌ひたがつてゐる詩の世界を與へるのだから、あまり考へさせられたり、敎へられ過ぎるものはよくない。

◇

如何に意味內容が適當でも節や音が低級粗雜なものは最もいけない。子供は大人の樣に分解的には鑑賞しないがその良否は最も銳敏性に聞き分けるものだ。子供は絕えず眞實の美を求めてゐる。その心情に合致すべき最も自由な眞美の世界を與へてやる事が敎師としての尊い任務である。

◇

近來この弊害が、いよ〲甚だしくなつたので國定唱歌本の改訂その他大分問題となつてゐるようである。童話についても略此樣な事が言へよう何處へ行つても兒童の口から童謠が聞かれ或ひは先生が童話を放送する昨今であるが果して彼等に愼重なる研究と用意あつてのことか。

金を持つて 娘が家出

父から搜査願

石城郡赤井村高萩前田藤吉次女ツル（一七）は數年前から郡山の紡績會社に女工となつて働いて居たが最近母が死亡したので一先づ歸宅したが十四日午後四時附近の男の子を連れ立つて出たまゝ子供は歸宅したが本人は自動車で平方面に來たまゝ歸宅しない、ツルの遺留品を檢べて見ると八十五圓携帶した事が明らかなので親は娘が高跳したとさとり平署に今十六日搜索方を願出た

漸次移り行く 平町の中心地

四丁目から南町へ

地價の移動注目

平町市內の商店街は各種の事情に制せられて中心點を移動して今日に至り然かも現在にいてなほ推移の運動を繼續してゐるのは周知の事實であらうもつとも商店街の**變遷なる**ものは交通機關の便否に左右されその便否により焦點集注の傾きを生じたからこゝにも少なからざる移動が現はれてゐるやうだ何せ市內の地價なるものは本通り二三丁目より停車場前通りなどを最高としてゐるのだから商店街としての中心地は矢張りこゝらやうだの大通り筋であつて中にも中樞二三丁目の角から停車場通へ至るものである往年の中樞點であつた四丁目から五丁目は平郵便局の移轉により漸次商店街たらんとする傾向が著しく商店數からいつてもこれを立證する事實が伴ふやうである目下問題となつてゐる**貸家の過剩**やこれが賃貸料のことなどについて商店街の發展如何に關係することが多いのであり且は南町中心地移動なるものとして多大の注意を惹いてゐる

肋膜を病む青年 死を覺悟の家出

憂ひの若い女房から

平署に搜查願ひ

田村郡御館村大字下枝字館生れ當時郡山市阿彌陀町矢板吉高（三二）は本年二月頃から肋膜を病み田舍では治療も出來ないので故里を離れて前記郡山に行き湯藥に親しんで居たが思ふ樣で無いので世を儚み煩惱に苦しめられて居たので自然美に富んだ磐城海岸で死にたい死にたひと口走つて居たが十五日頃二十圓を携帶して家出したので同人妻ミヨノは平署へ搜索方を願ひ出た

吾が子三人殺しに 懲役五年の求刑

けふ平支部法廷で

門傳辯護人熱辯

東京府下龜戸町左官請負業諸岡吉藏妻ハナヨ（三八）が去る八月十九日母子心中の目的を以て家出し死場所を搜しながら日光、小山、高萩邊を徘徊し二十一日午後十一時頃双葉郡夜の森驛附近に於て線路の傍に無心で熟睡してゐる長男後明（九）長女靜枝（六）恒雄（四）の三人をナイフを以て咽喉をえぐり即死せしめおのれは自殺を覺悟して海中に投身したるも死に切れず其の筋に捕はれた殺人事件の公判は今十六日午前九時より平支部に於て千葉裁判長、武田檢事立會、門傳辯護人列席の上開廷され、定刻型の如き事實の訊問あり被告は豫審の陳述を認め武田檢事は同情ある論告の後懲役五年を求刑して正午休憩午後二時より續行され門傳辯護人は被告の同情すべき身分と神心耗弱の罪により執行猶豫の恩典に浴さしめる同情ある判決を乞ふと熱辯を揮ひ閉廷したが被告が女だけ珍らしく婦人の傍聽人が多數あつた

沖の船と岡とが 手に取る樣に對話

愈々明年四月から

小名濱試驗場に

小名濱水產試驗場では從來所有する磐城丸に無線電信の設備はあつたが試驗場に受話機がなかつたため同船よりの報告はわかるも先方に對して通話をなす事が出來ず非常な不便を感じて來ので豫て設置方縣に交涉中のところいよ〲明年度四月早々より設置さるる事となつたので所有船は勿論他の漁船に對してもそれ〲參考になるべき資料を通せしむる事が出來る筈で在縣の漁業界に惠まるる好影響は蓋し甚大なものがあるべく當業者から期待されてゐる

詐欺常習者

志賀又捕はる

石城郡飯野村大字荒川農志賀光成（五九）は本月一日午後一時頃同郡神谷村大字中神谷飲食店志負政五郎から自分は同村鷹崎庄吉に稻掛用材を賣却しこの代金十六圓五十錢を受取る際庄吉から十圓紙幣二枚を出されつり錢がないから三圓五十錢を貸して呉れと巧に欺いて借受けたまゝ返濟せぬので調查したところ各用材の賣買など眞ッ赤のいつはりで詐欺せられたことが判明十四日平署へ引致取調を受けたが志賀は詐欺常習者である

あす磐炭の

野球大會

出場全チーム

內郷村磐城炭礦の第三回野球大會は明十七日午前八時より金坂グランドに於て擧行することゝなつたが出場チーム左の如し

Bグランド

病院　礦務課　綴坑ナイン　町田運轉　長倉坑平太郎　第三斜坑A　町田坑B　高坑坑B　製作所

Aグランド

小野田坑　運輸課　高坂坑A　勞務課町田坑A　宮小學校　第三斜坑B　鑛業所　平發電　建築

以上

小兒を轢く

自轉車乘の職工

平町白銀町九建具職山本庄平方雇人新屋兵吉（一九）は十五日午後四時頃自轉車に乘り大工町へ疾走中大工町鐵道官舍前路上で遊戲中の枚田四郎次男要司（七）を引倒し顏面に大瘤を生じしめ附近の醫師の治療を受けたと

磐新塔

霜月十五日の黃昏時、平町六丁目大通りは黑山の人だかり自働車まで止まる何事と思ひ覗ひばこきはしたりや樣女赤垣源造の現れかし、六丁目の掛茶屋から德利を背に千鳥足、大元氣で景氣は何處吹くの大氣焰、御用の手は容赦なく終に平署に逮捕はれ一應取調べの段となる――產れは雪も降ふる山形縣流れ流れて原の町懸の絆に殘られ下條淸治と云ふ男とか、まり同棲わずか一月にして別れた香平天女の渾名ある三宅シゲ（五八）で夫に振られた自暴酒から連日飲んで醉ひで判つて一安心。

內科、小兒科（院長每日診療）
院長　醫學博士　難波睦
內科部長　醫學博士　中西林藏
外科專門
外科部長　醫學士　氏家憲介
每日手術　醫學博士　桂重次
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長　醫學博士　松枝茂
耳鼻咽喉科
部長　醫學士　井上俊次郎
每日手術　醫學博士　渡部貞助
×光線、科物理學的診療科
主任　醫學博士　難波睦
技師　工藤慶造
衞生試驗所醫學博士　中西林藏
衞生試驗所技師　小熊英夫
藥局
藥局長　吉本孝平
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主管　賀澤忠治
一衞生試驗所（共濟病院內）
一病氣相談所（共濟病院內）
一救療所（共濟病院內）
◎救療を申込るゝ方は當相談所へ御話し下さい
磐城　共濟病院　平町電話六四一番
看護婦見習募集

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
[illegible]　赤羽淸
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

寒さの御用意
實用品の廉賣
日に增し寒くなつて參りました寒さの御用意は「緊縮時代」に相應しい「實用品」……と決りました。弊店は「金解禁」を前に安價のどん底を仕入れ、皆樣に買つて戴く事にしました。どうぞ一度御覽下さい　そして御撰擇を願ひます
◎御祝儀一式　◎七五三祝着品々　◎銘仙類
◎着尺モスリン　◎友仙モスリン
◎ナフトール着尺新柄　◎ニコ〲新柄
龜田屋吳服店
平町三丁目　電話五七番

淸酒　世界
銘酒
釀造元　吉清水屋
石城小名濱町
小野晋平
電話六番
各炭礦御用達